

## 大阪市立中央図書館「地方紙コーナー」

大阪に転居して4年余になるが、西長堀にある大阪市立中央図書館へ定期的に通っている。3階の「研究個室」を予約して利用することが多い。ドアで仕切られた個室で、落ち着いて作業できるのでありがたい。

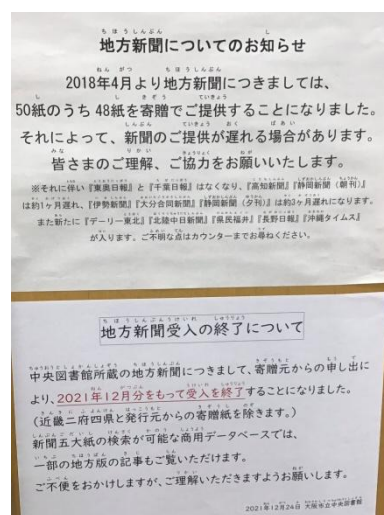
大阪コーナーで自治体関係資料などをチェックし、新聞コーナーの地方紙を閲覧・コピーする。定期的に見てきたのが東京新聞と中日新聞。そして時期とテーマにより閲覧してきたのが、琉球新報と沖縄タイムス、神奈川新聞、神戸新聞、福島民報などだ。これらの新聞をもとに多くのレポートを書いてきた。

写真は地方紙が並んでいる棚である。上の2段が空になっている。よく見ると「地方新聞についてのお知らせ」が掲示してあった。2018年4月より地方新聞につきましては、50紙のうち48紙を寄贈でご提供することになりました。それによって、新聞のご提供が遅れる場合があります。皆さまのご理解、ご協力をお願いいたします。

写真は地方紙が並んでいる棚である。上の2段が空になっている。よく見ると「地方新聞についてのお知らせ」が掲示してあった。2018年4月より地方新聞につきましては、50紙のうち48紙を寄贈で提供されることに、と書かれている。転居して図書館をよく利用するようになった頃だ。

掲示の下には、地方新聞受入について、寄贈元からの申し出により、2021年12月分をもって受入を終了することになったと書かれている。地方紙の1月と今月分の棚が空なのはそのためだ。お世話になっている司書さんに聞いてみたが、寄贈元の「事情」なので、どうしようもできない。地方紙を予算措置できないかと尋ねたが、いまの財政状況では、とても無理なようだ。

この図書館の「宝」である地方紙が、残念ながら継続して読めなくなった。図書館も予算が削減され、厳しい状況が続くが、またも大阪の「宝」が失われてしまった。レポートを書いていて、昨年12月12日の東京新聞朝刊1面の記事を思い出した。沖縄県辺野古で進む米軍基地建設で、沿岸部への土砂投入がはじまって3年。「辺野古の現状を国民に伝えるのが役割だ」という使命感から、現地周辺に小型無人機ドローンを飛ばし、不正に目を光らせる市民団体メンバーで土木技師を取材したものだ。記事は図書館で見つけ、レポートで紹介した。



(2022年2月15日)